



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御園町長屋1963
(株)エム・リレーション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)
E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



9月は秋なのか、未だ夏なのかという声があります。最近では日本の四季感があいまいになってきていますが、気象変動の影響だから仕方がないと思う方もいるかもしれません。仕方がない、やむを得ないと思うようなことは世の中、山のようにありますが、決して仕方がないことなんて一つもありません。

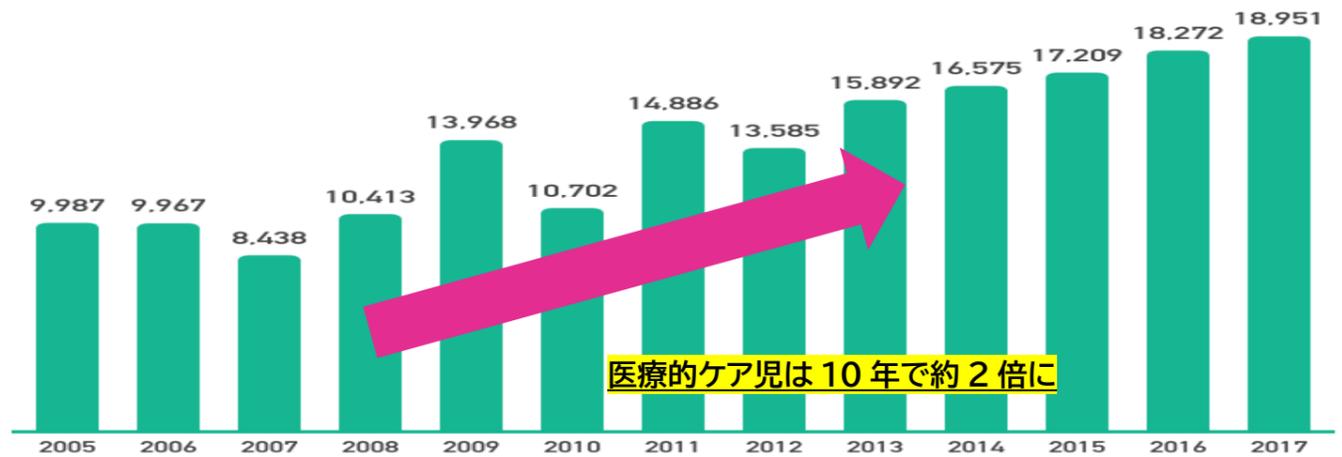
私たちが暮らす社会では、私たちが気づいていない、または知らない困りごとや悩みごとがたくさんあるのだということをこのネットワーク活動を通じて思い知らせることがあります。

今回は、個人会員の山方さんからのご投稿です。氏は、ご自分の思いを発信して、これからの活動に対して理解いただける方が増えることを期待されています。



「医療的ケア児」ご存じですか？

医療技術の進歩で年々増えているのに保護者に対する支援が追いついていません！



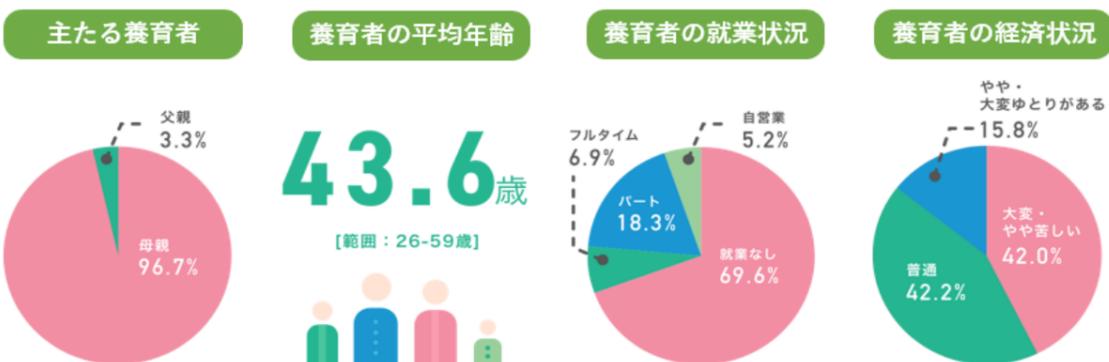
【はじめまして】社会福祉士という資格とこれまでの経験を活かし、今後、地域に根差した福祉や地域貢献活動を展開できるような事業（起業）をしたいと考えており、6月に地域連携ネットワークみえに入会させていただきました。

現在は、県内の国立病院にて政策医療のひとつの分野である「重症心身障害児（者）」や医療的ケア児の支援を担当するソーシャルワーカーとして勤務をしています。一般的に重症心身障害児（者）とは、知的および身体に重い障害がある子ども（年齢を重ね大人となった方も含む）のことを指します。そして最近、ニュースなどで耳にすることが増えてきた「医療的ケア児」（以下「ケア児」といいます。）とは、先天的な病気や障害を持って生まれ、人工呼吸器や経管栄養など医療的なケアを常時必要とする子どものことです。

社会では、ケア児をめぐる適切なケアが受けられれば地域で普通に暮らしていけるのに、保育の受け入れ先がなく、親が仕事を辞めて付きっきりで世話をしなくてはならないという問題が生じています。

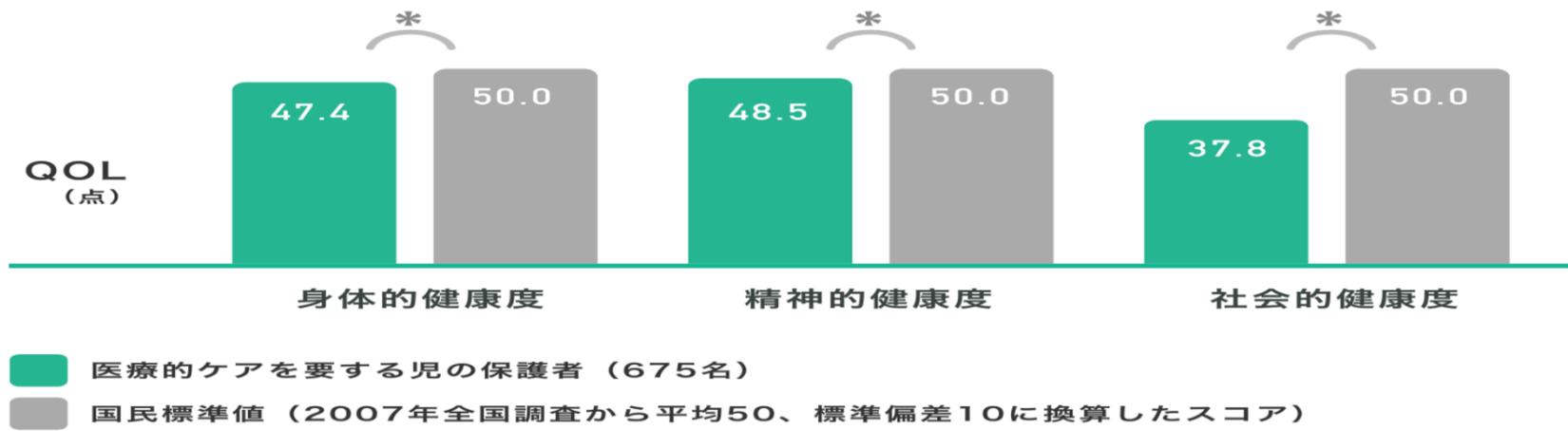
近年の新生児医療の発達で都市部を中心にNICU（新生児集中治療室）が増設された結果、超未熟児や先天的疾病を持つ子どもなど以前は出産直後に亡くなっていたケースでも助かることが多くなってきました。その結果、医療的ケアを必要とする子どもの数は増加傾向です。2021年現在、全国のケア児（在宅）は、約2万人（推計）。ケア児を育児する親御さんのうち母親の多くが仕事を辞め、24時間つきっきりで子どもの介護にあたっている現状があります。

主たる療育者の状況



出典：東京大学家族看護学分野 上別府研究室
「医療的ケアを要する児童生徒の保護者のレスパイトとQOL(生活の質)に関する調査」

医療的ケア児保護者の QOL(生活の質)



調査によると、ケア児を抱える保護者（特に母親）の身体的・精神的・社会的健康度はいずれも国民標準値に比べ低く「社会的健康度」が特に低くなっています。社会的健康度の低さは仕事や家事などの普段の活動をするとときに問題を感じたり、友人や親戚等との付き合いが妨げられているように感じることを示しています。

私はこれまでの業務経験から「この子の面倒をみなきゃいけないから働きたくても働けない」や「急なお迎えもあるので正社員としては働き辛い」という保護者の声を多く耳にしてきました。また「普通のお母さんは自由におでかけができて羨ましい」などの声を聞いたこともあります。

私自身、病院で勤務しているが故に病院がケア児に提供しているサービス（レスパイトケア：家族の休息目的としてケア児を病院で1週間程度お預かりするサービス）の利用を勧めることしかできないもどかしさも常に感じていました。

一方で、ケア児を子育てする家族の負担を軽減し、ケア児の健やかな成長を図るとともに、その家族の離職を防止する目的で2021年6月には「医療的ケア児支援法」が成立しました。ケア児を法律上で明確に定義し、国や地方自治体がケア児の支援を行う責務を負うことを日本で初めて明文化した法律となっています。

法整備もおこなわれケア児本人に対する支援体制が拡充しつつある昨今だからこそ、ケア児の保護者が安心して地域社会で働き続けられ、自信と誇りを持ちながら社会参画できる仕組みづくりが必要と考えます。そのためにもまずは事業主の方々のケア児とその保護者に対する理解促進や社会的な認知度向上を目指すところから活動をはじめて参りたいと考えています。

関心を持ってくださった方や一緒に勉強させていただける方は是非ご連絡ください！

<追伸>

地域に根差した活動の取り組みとして、この秋（11月）に松阪市魚町にて「日本茶」をテーマとした日本茶スタンド（お茶カフェ）を開業予定です。明治時代に建てられたと思われる築100年超の古民家を、地元の建築士で構成する任意団体（松阪建築家クラブさん）とともに改修し国内外の観光客や地域の方々が集える場を提供していきます。

お店の場所は牛銀本店さまの真向かい。風情ある街並みの一角となります。お茶の生産量第3位のここ三重県から日本茶の魅力を全国、全世界に発信していきたいと考えています！オリジナル商品の販路開拓や仕入れ、メニュー開発、店舗運営などご協力いただける方や企業さまがいらっしゃいましたら是非ご連絡ください！皆さま方のお力添えをどうぞよろしくおねがいいたします！

Email: yamagataikuhiro@icloud.com

<店舗情報>

店舗名：うさぎの小屋（2023.11月中旬開業予定）
住所：〒515-0082 三重県松阪市魚町1625番地
定休日：月曜日（予定）※営業時間は未定です
Instagram：うさぎの小屋 (@usaginokoya)
※開業前にも関わらず既に3,000人以上のフォロワーがあり注目を集めています。
※新聞社他各種媒体で既に取材依頼を受けています
店舗規模：延床面積約30坪/2階建て
客席数：20席程度（予定）

<営業内容>

- ・品種別に日本茶を楽しめる日本茶スタンドの運営
- ・古家具、古道具（アンティーク家具）の販売
- ・茶葉の販売

内観パース



<編集後記>

昭和前期の世代といわゆるZ世代・Y世代とは当然に感性も異なっています。前者は「本当に自分がやりたいこと」の前に先ず生活のために何をするか、という思考があったと思います。しかし、後者は、やりたいことと、やるべきことを同時に進行しようとする。ビジネスマンが、一度は耳にするマズローの欲求5段階説。それは生理的欲求、安全欲求、社会的欲求、承認欲求、自己実現欲求ですが、実はもう一つ6段目に自己超越欲求があるという話があります。これは利他的なこと、「他者のために」という概念です。今は生まれながらにほぼ半分の欲求が満たされているから、段階的でなく6段階目も同時に実行できる環境があるのかも知れません。利他のこころを持ってネットワークのご縁を広げていければ、本当に嬉しく思います。

